

小豆島土砂災害 50 周年行事

令和 8 年 7 月 12 日（日）

国民宿舎小豆島

（小豆郡小豆島町池田）

小豆島ふるさと村

（小豆郡小豆島町室生）

共催	香川県／土庄町／小豆島町 ／小豆地区広域行政事務組合
後援	全国治水砂防協会香川県支部

【訓練・展示参加機関】

[国]

四国地方整備局・四国山地砂防事務所

[自衛隊]

陸上自衛隊第14旅団

[県・市町]

香川県・香川県防災航空隊

土庄町・小豆島町・小豆地区広域行政事務組合

[警察関係]

香川県警察本部・小豆警察署・小豆島海上保安署

[消防関係]

小豆地区消防本部・土庄町消防団・小豆島町消防団

[医療関係]

小豆島中央病院・小豆島町赤十字奉仕団

[企業・団体等]

NPO法人かがわ県防災教育振興協会

香川県砂防ボランティア協会

// 災害概要 //

○昭和 49 年 7 月（台風 8 号による集中豪雨）

昭和 49 年 7 月 6 日夜半、小豆島一帯を襲った集中豪雨は、オリーブと寒霞溪で知られる瀬戸内海観光の島を、一夜のうちに悲劇の孤島に変えました。

特に、小豆島東海岸の内海町橘地区、福田地区、岩ヶ谷地区等では死者 29 名、重軽傷者 21 名、家屋の全半壊合わせて 249 棟という大惨事に見舞われました。

降雨状況		被害状況				
観測箇所	内海町岩ヶ谷	死者 (人)	負傷者 (人)	家屋(棟)		床上床下浸水 (戸)
最大1h雨量	90.0mm/h			全壊	半壊	
最大日雨量	396.0mm/日	29	24	47	216	9,350
連続降雨量	406.0mm					



(旧内海町岩ヶ谷地区上空より空撮)

○昭和 51 年 9 月（台風 17 号による集中豪雨）

昭和 51 年 9 月台風 17 号による集中豪雨は、県下全域に猛威を振るいました。

特に小豆島地区、東讃地区においては、わずか 6 日間で 1 年分という異常降雨をもたらし、随所で山腹崩壊による土石流やがけ崩れが起こり、家屋が押し潰され、人命が奪われるという大惨事となりました。

なかでも、四方指観測所では 9 月 8 日 12 時より 9 月 13 日 15 時までに、1,400mm という過去の記録を大幅に上回る豪雨となりました。

この集中豪雨によって、旧池田町谷尻地区で 24 名、さぬき市津田町北山地区で 8 名の死者を出すなど、県下各地で合わせて死者 50 名にのぼる記録的な大災害を被りました。

降雨状況		被害状況				
観測箇所	池田町四方指	死者 (人)	負傷者 (人)	家屋(棟)		床上床下浸水 (戸)
最大1h雨量	85.0mm/h			全壊	半壊	
最大日雨量	754.0mm/日	50	127	274	317	19,701
連続降雨量	1,400.0mm					



(旧池田町谷尻地区上空より空撮)

// 実施目的 //

昭和 49 年、51 年に小豆島において発生した大規模な土砂災害の歴史を風化させることなく、土砂災害に対する理解と知識を深め、防災意識の高揚を図ることを目的として 10 年ごとに実施しています。

// プログラム //

第1部 式典及び講演（国民宿舎小豆島交流センター及びふるさと村イベント広場）

13:00 開会

挨拶 主催者 池田 豊人（香川県知事）

岡野 能之（小豆地区広域行政事務組合管理者）

来賓 國友 優（国土交通省水管理・国土保全局砂防部長）

奥田 晃久（国土交通省四国地方整備局長）

氏家 孝志（香川県議会議長）

鎌田 守恭（全国治水砂防協会香川県支部長）

13:30 講演 1 講師 國友 優（国土交通省水管理・国土保全局砂防部長）

演題 「いのち」と「くらし」と「なりわい」を守る砂防

2 講師 牧野 裕至（博士（環境学）・元国土交通省砂防部長）

演題 最近の豪雨研究から見た香川県の豪雨と土砂災害

14:30 閉会

子供砂防広場（ふるさと村体育館）

13:00 開場

- ・土石流3D体感シアター
- ・降雨体験装置
- ・地震体験車
- ・土砂災害模型展示
- ・砂防パネル展示
- ・早期避難の必要性を知る防災教育

（14時からNPO法人かがわ県防災教育振興協会による約40分間の体験型講座）

15:00 閉場



第2部 総合防災訓練（ふるさと村グラウンド）

15:00 訓練開始

小豆島町にレベル3土砂災害警報発表

訓練対策本部設置

レベル4土砂災害危険警報発表

日赤奉仕団非常炊出し訓練

小豆島海上保安署要請

自衛隊派遣要請

県警広域緊急援助隊要請

小豆消防署要請

17:30 レベル4土砂災害危険警報解除

レベル3土砂災害警報解除

閉会式（講評、謝辞等）及び訓練対策本部解散



（家族と一緒に避難）

イラスト提供

NPO法人土砂災害防止広報センター

// 講師紹介 //

國友 優（くにとも まさる）

滋賀県出身



主な職歴

平成 5 年 4 月 建設省入省

令和 2 年 7 月 国土交通省東北地方整備局河川部長

令和 4 年 6 月 国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課長

令和 7 年 7 月 国土交通省水管理・国土保全局砂防部長

牧野 裕至（まきの ひろし）

香川県出身 技術士（総合技術管理部門・建設部門） 博士（環境学）



主な職歴

昭和 51 年 4 月 建設省入省

平成 23 年 1 月 国土交通省河川局砂防部砂防計画課長・砂防部長等を歴任し退官

令和 4 年 4 月 ダイチ株式会社専務取締役

令和 5 年 4 月 瑞宝中綬章を受章

// 令和 7 年度香川県土砂災害防止に関する「絵画」優秀作品 //



【国土交通事務次官賞】

【知事賞】

坂出市立坂出中学校

2年 井上 拓哉



【土木部長賞】

高松市立木太南小学校

6年 藤本 海夏



【土木部長賞】

高松市立木太南小学校

4年 山田 莉央

// 令和7年度香川県土砂災害防止に関する「作文」優秀作品 //

【国土交通事務次官賞】【知事賞】

「災害が少ないからこそ」 三豊市立桑山小学校 六年 秋山 聡志 さん

僕の住んでいる香川県は他の県よりも降水量が少なく、大きな災害などがあまり起きません。香川県の年間降水量を調べてみると、約千百五十ミリと全国平均値を大幅に下回っています。しかも災害発生件数も全国的に見ても少ない方だと言えます。僕も今まで大きな災害に見舞われたことは一度もありません。だから「香川県は災害が起きなくて安全。」だと思っていました。ですが何年か前にテレビの映像で西日本豪雨や土砂崩れを見たとき、この考えが変わりました。大雨の後、崩れた土砂が住宅を覆い、人々が瓦礫や泥の中で必死に探索しているところを見て、とても衝撃的でした。僕も小さい頃、川に流されたことがあり、同じような経験をしたので被害にあった人の怖さがよく分かりました。後のインタビューで「自分の住んでいる町でこんなことが起こると思わなかった。」と被害にあった多くの人がこう答えていました。だから僕は「どれだけ災害が起こらなくても災害は起こるものなのだ。」と改めて考えました。

まず土砂崩れとは大雨や地震などの影響で山やがけ崩れ、土や石、木が一気に流れ落ちる現象です。香川県には平野が多いですが、山地も多く、特に讃岐山脈や三豊市の山間部などは急な斜面が多い地域です。三豊市にある僕の学校の近くにも山があり、土砂崩れが起きると巻きこまれるかもしれません。実際香川県でも過去に土砂災害が起きています。二〇十四年八月の台風11号では、土庄町や小豆島で大規模な崖崩れが発生し、住宅や道路が土砂に覆われました。香川県が発表した情報によると、県内には「土砂災害警戒区域」が八千三十八ヶ所、「特別警戒区域」が六千六百十二ヶ所もあります。「香川県は災害発生件数が少ない」というイメージとは裏腹に多くの場所が土砂災害の危険を抱えていると示しています。

では、僕たちができる土砂災害が起きる前にできる行動は何でしょうか。第一に自分の住んでいる地域の危険度を知ることです。それぞれの地域に配布される土砂災害ハザードマップには、警戒区域や避難所などが記されています。常に確認しておくといざという時に素早く避難でき、命を守ることにもつながります。第二に大雨の時は、早めの避難行動をとることです。香川県では近年、「大雨特別警報」や「警報レベル四」が出されることがありますが、その時点で避難を始めるのでは遅い場合があります。大雨が予想された時点で家族と連絡を取り合い、避難経路を確認しておくことが大切です。第三に防災訓練や地域活動に積極的に参加することです。多くの市町で住民参加型の避難訓練が行われています。避難訓練を普段からしているともし災害が起こったとしても瞬時に行動でき、災害が起きたときへの不安が減ります。

「災害が少ない地域に住んでいる。」このように油断をしていると、時に命取りになります。香川県にも八千ヶ所を超える警戒区域がある以上、「自分たちの町は安全。」という思いこみは危険です。大事なのは普段の生活の中で災害の危険を想像し、行動に移すことです。

これからも家族や地域の人と一緒に災害について話し合い、ハザードマップを見て避難場所を確認するなどをして、もしも災害が起きた時に「備えておいてよかった。」と言えるように、普段の日常から準備を続けたいと思います。香川県は「大きな災害が少ない」とみんなが思っているからこそ防災意識を高く持ち、命とこの暮らしを大切に守っていきたいです。

【土木部長賞】

「にげることの大切さ」 三豊市立桑山小学校 四年 山下 維月 さん

おばあちゃんの家は山の中にあります。ある日、おばあちゃんの家に向かっている途中にブルーシートがかけられた場所があり、不思議に思いました。お父さんに聞くと、「この間の大雨で山のしゃ面がくずれてしまって、あぶないから応急処置してるんだよ」と言っていました。

おばあちゃんの家の中の山もくずれていました。すごい量の大雨がふってきて山がくずれたそうです。よく見ると竹もいっぱいたおれていました。

「これ以上くずれないといいんだけどね」とおばあちゃんは心配そうに言いました。

おばあちゃんはこの日から大雨になると、よく私の家にとまりに来るようになりました。小さいころの私は、おばあちゃんがとまりに来る理由がよく分かっていませんでした。でも、とまりに来てくれるのがとてもうれしくて、楽しみにしていました。小学生になってニュースを見始めてから、このおばあちゃんの行動がとても大事なことだったのだと気づきました。

最近をよく大雨のニュースを見ます。川があふれて、道路にまで水があふれている所を見ました。水があふれすぎて車が前に進めなくなっていました。車の中の人には救急隊の人に助られていました。他にもにげおくれしている人達がたくさんいて、救助されていました。

山がくずれて家が流されてしまったニュースも見ました。大雨で土砂が流れて来て、家も車もいっしょんで流されてしまっていました。もし、おばあちゃんの家も流されてしまったらと考えると、とてもこわくなりました。またニュースを見ていると土砂が流れて道路をふさいでしまい、ひなんすることが出来なくなってしまうことがあることも知りました。大雨がふったら、すぐにテレビやインターネットを見て、情報を集めて、早目に逃げるじゅんぴをすることがとても大事なんだなと思いました。

大雨がふる前に自分達で出来ることを考えました。家族みんなで緊急ひなん場所をかくにんしました。小学校や中学校がひなん場所になっていることを初めて知りました。中学校が近いので、何かの災害があったら中学校へひなんすると家族で決めました。また、もし一人で家にいる時にけい報が出たら、すぐにお父さん、お母さんに電話してどうすればいいか聞くと決めました。

今もおばあちゃんは大雨がふると私の家にとまりに来ます。

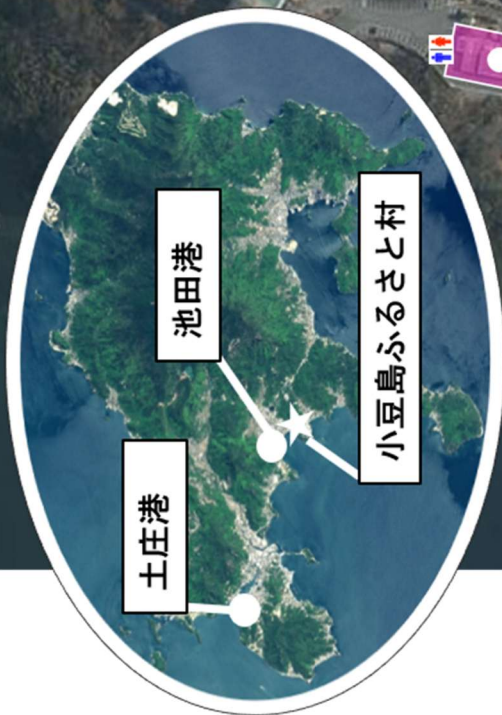
「いつもごめんね。ずっと大丈夫だったし、もうとまりに来なくても大丈夫かな？」とおばあちゃんは言いました。でもお母さんが、「いつ何が起こるか分からないし、災害が起こってからにげるのじゃおそいよ。うちは大丈夫だからいつでもとまりに来て」と伝えていました。本当にその通りだと思いました。災害から命を守るにはすぐになににげる、にげるか迷った時はにげるようにすることがとても大事だと思います。

「そうだよ！大雨がふったら、またとまりに来てね、おばあちゃん！」と私もおばあちゃんに言いました。おばあちゃんは、「ありがとう、いっちゃん」と笑っていました。いつでもおばあちゃんが安心してひなんすることができるように、私もじゅんぴしたいと思いました。

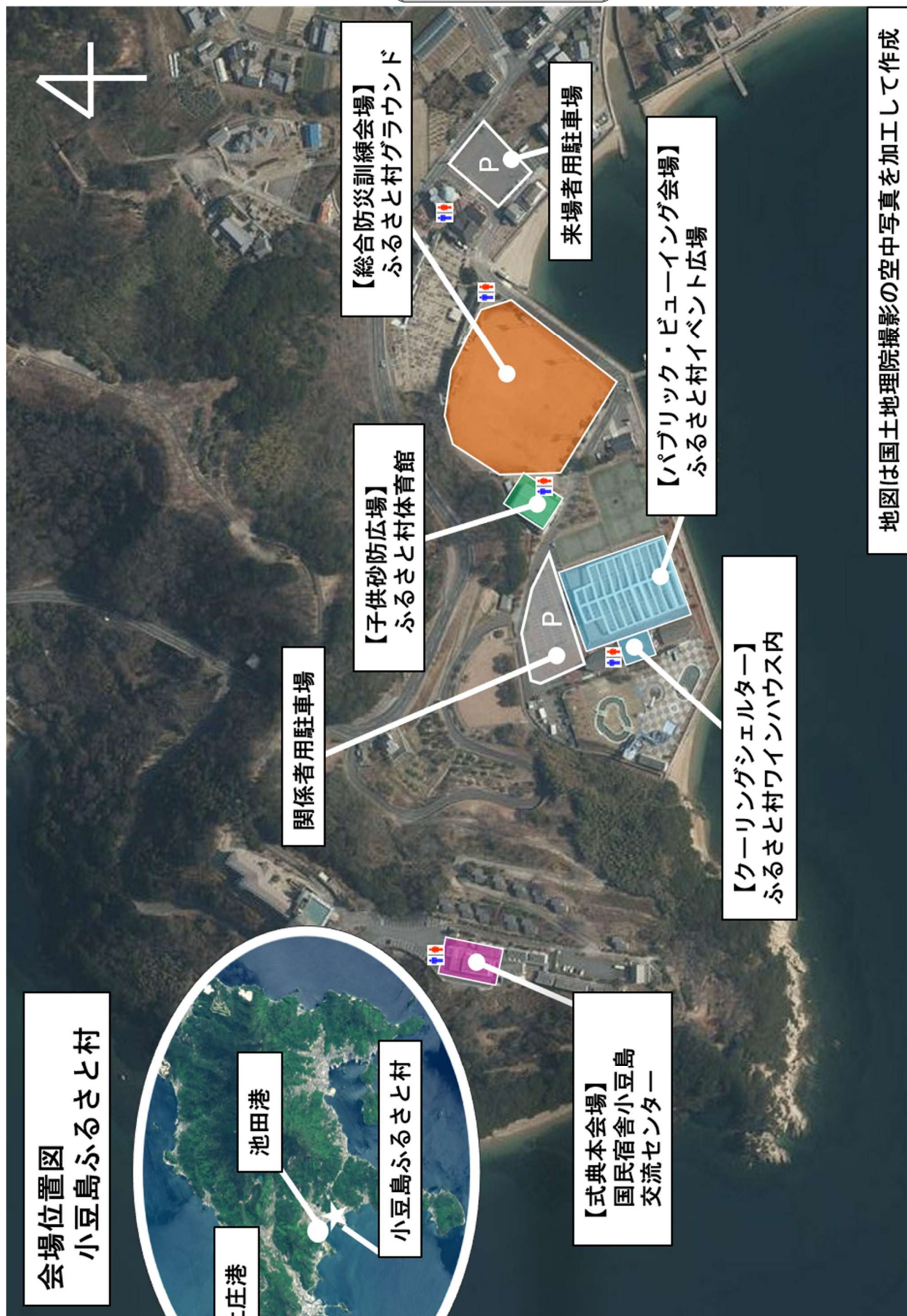
土砂災害はとつぜん起きます。でも災害が起きる前にできることもあります。防災グッズを用意すること、天気予報を毎日かくにんすること、そして「にげること」がとても大切です。これからは家族みんな笑顔ですごせるよう、他にどんなことができるのか考えていきたいと思っています。

会場位置図

小豆島ふるさと村



会場案内図



地図は国土地理院撮影の空中写真を加工して作成

※浜条の馬場からふるさと村までの送迎があります。

※ふるさと村の会場では、熱中症対策として、クーリングシェルター（エアコンの効いた部屋）を準備しております。行事時間中は、どなたでも利用可能ですので各自で体調管理をお願いします。